

# 情報処理学会東北支部 平成27年度 支部報告会

日時 : 平成27年6月17日(水) 12:30 ~ 14:00

場所 : 東北大学 工学部 電子情報システム・応物系 1号館別館 451,453号室

住所 : 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-05

## 次第

- I 開会
- II 支部長挨拶
- III 報告
  - (表彰)
    - 1. 平成26年度 東北支部学生奨励賞の選考結果報告 資料1
    - 2. 平成26年度 東北支部奨励賞の選考結果報告 資料2
    - 3. 第10回 東北支部野口研究奨励賞の選考結果報告 資料3
    - 4. 平成26年度 東北支部奨励賞 贈呈
    - 5. 第10回 東北支部野口研究奨励賞 贈呈
  - (報告事項)
    - 1. 平成26年度活動報告について 資料4
    - 2. 平成26年度決算について 資料5
    - 3. 平成26年度役員改選について 資料6, 7, 8
    - 4. 平成27年度事業計画について 資料9
    - 5. 平成27年度予算について 資料10
    - 6. その他
      - 1. 平成27年度電気関係学会東北支部連合大会について 資料11
  - (学会概況報告)
    - 1. 学会概況報告 資料12
- IV 閉会

## 情報処理学会東北支部 平成26年度 学生奨励賞 受賞者

趣旨 情報処理分野を学ぶ東北地区の学生が、より一層、情報処理分野の勉学に勤しむように奨励する。

対象 情報関連学科を持つ大学または高専の卒業年度生で、成績優秀な学生。

(学生奨励賞に関する要項より要約・抜粋)

情報関連学科を持つ主要大学等 15 校に成績優秀者の推薦を依頼したところ、下記 15 名の推薦があった。選考委員会においてメール審議を行い、推薦のあった全ての学生に学生奨励賞を授与することと決定した。

氏名	所属
小田桐 真人	弘前大学 理工学部 電子情報工学科
久我 元士	八戸工業大学 工学部 システム情報工学科
佐藤 翔平	秋田大学 工学資源学部 情報工学科
石島 樹	秋田県立大学 システム科学技術学部 機械知能システム学科
沼倉 彬雄	岩手大学 工学部 電気電子・情報システム工学科
紺野 良太	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部
上野 洋	山形大学 工学部 情報科学科
逢坂 美冬	東北大学 工学部 情報知能システム総合学科
渡邊 琢磨	東北工業大学 工学部 情報通信工学科
伊藤 修平	東北学院大学 工学部 電気情報工学科
佐藤 友昭	仙台高等専門学校 専攻科・情報電子システム工学専攻
守屋 周祐	会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科
酒寄 皓平	日本大学 工学部 情報工学科
添田 知宏	福島大学 共生システム理工学研究科
渡部 壮	鶴岡工業高等専門学校 制御情報工学科

## 情報処理学会東北支部 平成26年度 支部奨励賞 受賞者一覧

趣旨 情報処理に関する学問，技術の奨励のため，有為と認められる新進の科学者  
または技術者に贈呈する。

対象 支部連合大会および研究会に発表した者で，大学の学部卒業後10年未満，か  
つ過去に本奨励賞や類似の賞を受賞していない者。

(表彰規定より要約・抜粋)

平成26年8月21日，22日に開催された電気関係学会東北支部連合大会と，平  
成26年4月～平成27年3月に開催された研究会(計5回)のそれぞれにおいて，  
座長より合計13件(連合大会より12件，研究会より1件)の推薦があった。

それぞれの推薦論文について事前に有識者による査読を行い，その結果など  
をもとに平成27年4月28日に開催された選考委員会で審議し，平成27年5月11日  
に開催された支部運営委員会で，以下の受賞者を決定した。

### 東北支部連合大会

- 草薙 大地(東北大)  
「ドアレバーのための指関節紋個人認証システムの検討」
- 今野 由也(東北工大)  
「Drive-by-Download 攻撃におけるフローペイロードの類似性の調査」
- 真壁 良介(東北工大)  
「H8 マイコンによる3ブランチ最大比合成ダイバーシチを適用した16QAM  
無線伝送シミュレータの製作」

### 研究会

- 藤井 洸行(秋田大)  
「無症候性脳梗塞の簡易判定のためのタブレット端末を用いた巧緻動作の  
解析」

## 情報処理学会東北支部 第10回野口研究奨励賞 受賞者

**趣旨** 優秀な学術論文を出版した東北支部会員の若手研究者に対して賞を授与し、より一層の情報処理分野に関する研究開発を奨励する。

**対象** 過去5年程度以内において、学術雑誌・国際会議予稿集に掲載された論文の主要な著者で、35歳以下の若手研究者。

(野口研究奨励賞の要項より要約・抜粋)

第10回野口研究奨励賞に1件の応募があり、平成27年4月28日に開催された選考委員会で慎重に審議し、平成27年5月11日に開催された支部運営委員会で、以下の1名を受賞者とすることを決定した。

**受賞候補者** 小松 一彦 (東北大学サイバーサイエンスセンター・助教)

**対象論文** A Compiler-Assisted OpenMP Migration Method based on Automatic Parallelizing Information

**著者** Kazuhiko Komatsu, Ryusuke Egawa, Hiroyuki Takizawa, and Hiroaki Kobayashi

**出典** Proceedings of 29th International Supercomputing Conference (ISC '14), Vol. 8488, pp. 450-459, Springer International Publishing, June 2014.

# 第 10 回(平成 26 年度)野口研究奨励賞



## 受賞者

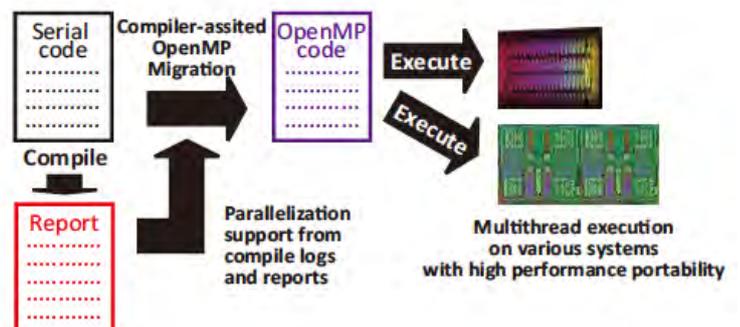
小松一彦 (こまつ かずひこ)

東北大学 サイバーサイエンスセンター

## [研究の概要]

高性能計算(HPC)システムを必要とするアプリケーションは、その性能を最大限に引き出すために、特定のHPCシステムを強く意識したコードの開発が行われている。近年多様な HPC システムが登場しており、特定の HPC システムだけでなく様々な HPC システムにおいても高い性能を引き出すことができるコードが強く求められている。しかしながら、そのようなコードの最適化には大幅な修正が必要となっている。

今回受賞対象となった論文では、コンパイル情報を活用して、様々な HPC システムにおいても性能を引き出すことができる OpenMP 並列コードを容易に開発する手法を提案している。特定の HPC システムを意識したコードのコンパイル情報が、他の HPC システムにおいても有用であることに着目し、提案する手法ではコンパイラ



の並列化情報から並列化可能な場所を特定している。これにより、並列化の際のプログラマの負担を抑えつつ、他の HPC システムにおいても効果的な並列コードを開発することができる。実験により、提案手法による並列コードが様々な HPC システムにおいて高い性能を達成できることを明らかにしている。

## [受賞の感想]

この度、野口研究奨励賞という大変名誉ある賞を受賞することができ、情報処理学会東北支部の皆様には深く感謝申し上げます。また、本研究を遂行するにあたり、小林広明先生、滝沢寛之先生、江川隆輔先生には、多大なるご指導をいただきました。厚く御礼申し上げます。今後も情報処理分野の発展のため、尽力してまいります。

# 情報処理学会東北支部 平成26年度活動報告

## 1 支部報告会

日程 : 平成26年6月11日(水) 12:30~14:00

会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 情報新棟 451,453号室

## 2 役員会等

### 2.1 第1回 幹事会

日時 : 平成27年4月28日(水) 17:00~18:00

会場 : 東北大学 電気通信研究所 本館6階 中会議室

- 議題 :
1. 平成26年度支部役員改選について
  2. 平成26年度支部奨励賞, 支部学生奨励賞, 第10回野口研究奨励賞について
  3. 平成26年度決算について
  4. 平成27年度予算について
  5. その他

### 2.2 第1回 運営委員会

日時 : 平成27年5月11日(月) 16:00~17:00

会場 : 東北大学 電気通信研究所 本館6階 中会議室

- 議題 :
1. 支部役員改選結果報告
  2. 支部長会議, 役員検討会報告
  3. 支部学生奨励賞の受賞者の報告
  4. 支部奨励賞の受賞者の決定について
  5. 第10回 野口研究奨励賞の受賞者の決定について
  6. 平成26年度活動報告について
  7. 平成27年度活動計画について
  8. 平成26年度決算について
  9. 平成27年度予算について
  10. 平成27年度支部報告会について
  11. 平成27年度電気関係学会東北支部連合大会について
  12. その他

### 3 事業計画に基づく事業（行事、表彰等）

#### 3.1 電気関係学会東北支部連合大会

日程 : 平成 26 年 8 月 21 日（木）, 22 日（金）  
会場 : 山形大学工学部  
一般講演 : 260 件  
参加者数 : 述べ 550 名  
特別講演  
日時 : 平成 26 年 8 月 21 日（木） 15:30～17:00  
場所 : 山形大学工学部中示範 A 教室  
講師 : 阿部 哲人 氏（上杉博物館主任学芸員）  
演題 : 「上杉鷹山の思想と治世」

#### 3.2 研究講演会

今年度は 2 回開催した。

- 第 369 回研究講演会  
日時 : 平成 26 年 6 月 11 日（水） 14:40～16:10  
会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 101 大講義室  
講師 : 佐野晃之氏（NTT 東日本 新潟支店長）  
演題 : 「情報通信の発展と社会への貢献」  
参加者 : 200 名
- 第 370 回研究講演会  
日程 : 平成 27 年 2 月 19 日（木） 15:00～16:30  
会場 : 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 A 棟 201 講義室  
後援 : 岩手県情報サービス産業協会, 東北地域情報サービス産業懇談会  
講演者 : 同志社女子大学 加藤 敦 氏（経営学）  
（地域ソフトウェア会社のグローバル経営の研究に従事）  
講演題目 : 「地域における固有性を考慮した ICT サービス起業促進策にむけて  
: ICT 技術者の起業態度に関する調査結果を踏まえて」  
参加者数 : 11 名

#### 3.3 研究会

今年度は 5 回開催した。

- 平成 26 度 第 1 回研究会  
日程 : 平成 26 年 12 月 1 日（月） 9:30～16:00  
会場 : 秋田大学理工学部 5 号館 101  
発表件数 : 10 件  
参加者数 : 107 名

- 平成 26 年度 第 2 回研究会
  - 日程 : 平成 26 年 12 月 20 日 (土) 08:45 ~ 18:00
  - 会場 : 岩手大学工学部 4 号館 (情報システム工学コース棟) 2 階 205 室
  - 発表件数 : 31 件
  - 参加者数 : 62 名
- 平成 26 年度 第 3 回研究会
  - 日程 : 平成 27 年 1 月 31 日 (土) 13:00 ~ 18:00
  - 会場 : 会津大学研究棟 2 階 小講義室 S1 (A 会場), 小講義室 S2 (B 会場)
  - 発表件数 : 23 件
  - 参加者数 : 43 名
- 平成 26 年度 第 4 回研究会
  - 日程 : 平成 27 年 2 月 10 日 (火) 10:30 ~ 17:10
  - 会場 : 東北学院大学 泉キャンパス 2 号館 2 階 229 教室
  - 発表件数 : 16 件
  - 参加者数 : 78 名
- 平成 26 年度 第 5 回研究会
  - 日程 : 平成 27 年 3 月 4 日 (水) 10:20-16:10
  - 会場 : 山形大学工学部 5 号館 3 階, 302(A 会場), 303(B 会場)
  - 発表件数 : 24 件
  - 参加者数 : 40 名

### 3.4 表彰

#### 3.4.1 支部奨励賞

4 名が受賞。

#### 3.4.2 支部学生奨励賞

以下の 15 名が受賞した。

氏名	所属
小田桐 真人	弘前大学 理工学部 電子情報工学科
久我 元士	八戸工業大学 工学部 システム情報工学科
佐藤 翔平	秋田大学 工学資源学部 情報工学科
石島 樹	秋田県立大学 システム科学技術学部 機械知能システム学科
沼倉 彬雄	岩手大学 工学部 電気電子・情報システム工学科
紺野 良太	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部
上野 洋	山形大学 工学部 情報科学科
逢坂 美冬	東北大学 工学部 情報知能システム総合学科
渡邊 琢磨	東北工業大学 工学部 情報通信工学科
伊藤 修平	東北学院大学 工学部 電気情報工学科
佐藤 友昭	仙台高等専門学校 専攻科・情報電子システム工学専攻
守屋 周祐	会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科
酒寄 皓平	日本大学 工学部 情報工学科
添田 知宏	福島大学 共生システム理工学研究科
渡部 壮	鶴岡工業高等専門学校 制御情報工学科

### 3.4.3 野口研究奨励賞

1名が受賞。

### 3.5 支部だよりの発行

第233号および第234号を発行。

## 4 その他特記事項等

### 4.1 後援

- 子ども科学キャンパス
  - 日時 : 平成26年7月30日～31日, 10月15日
  - 場所 : 東北大学創造工学センター「発明工房」
  - 主催 : 東北大学, 仙台市教育委員会
- たのしいサイエンス・サマースクール
  - 日時 : 平成26年8月5日～7日
  - 場所 : 東北大学創造工学センター「発明工房」
  - 主催 : たのしい科学企画委員会

- 平成 27 年東北地区若手研究者研究発表会
  - 日時 : 平成 27 年 2 月 28 日
  - 場所 : 日本大学工学部 70 号館
  - 主催 : 東北地区若手研究者研究発表会  
「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」
- 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座
  - 日時 : 平成 26 年 12 月 25 日, 26 日
  - 場所 : 東北大学 サイバーサイエンスセンター
  - 主催 : 東北大学 サイバーサイエンスセンター
- 山形大学国際事業化研究センター「海外からの講演者招へい助成事業」講演会
  - 日時 : 平成 27 年 3 月 23 日
  - 場所 : 山形大学 1 2 1 教室
  - 主催 : 山形大学国際事業化研究センター
  - 演題 : モンゴルの情報リテラシー教育の概要について
  - 講演者 : Batnasan Batchuluun 先生 ( Mongolian State University of Education, School of Mathematics and Natural Science, Department of Informatics )

#### 4.2 協賛

- 東北大学電気通信研究所一般公開 2014
  - 日時 : 平成 26 年 10 月 4 日 ~ 5 日
  - 場所 : 東北大学 電気通信研究所
  - 主催 : 東北大学 電気通信研究所

## 情報処理学会東北支部 平成26年度決算

## ■収入

収入	予算	決算	決算-予算
本部からの繰入相当額	1,780,000	1,780,000	0
支部交付金相当額	1,780,000	1,780,000	0
補助金収入	50,000	50,000	0
野口正一氏からの助成	50,000	50,000	0
雑収入(利息等)	1,000	24	-976
利息など	1,000	24	-976
当期収入合計(A)	1,831,000	1,830,024	-976

## ■支出

支出	予算	決算	予算-決算
事業費	1,430,000	1,063,319	366,681
講演会	300,000	104,854	195,146
研究会	320,000	214,901	105,099
支部表彰	350,000	303,564	46,436
連合大会(分担金)	310,000	310,000	0
連合大会(運営費)	0	0	0
セミナー支援	150,000	130,000	20,000
管理費	500,000	353,355	146,645
役員会・幹事会	120,000	225,031	-105,031
支部報告会	40,000	0	40,000
広報・アルバイト	330,000	128,324	201,676
雑費	10,000	0	10,000
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	1,930,000	1,416,674	513,326

## ■収支

収支	予算	決算	決算-予算
当期収支差額(A-C)	-99,000	413,350	512,350

## 平成26年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2014.4.24 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長	新	大堀 淳	小林 広明	東北大学電気通信研究所	
庶務幹事		伊藤 輝樹	関口 理恵	富士通(株)東北支社	
	新	北形 元	滝沢 寛之	東北大学電気通信研究所	
会計幹事	新	瀬沼 宏之	再任	日本電気(株)東北支社	
		青木 輝勝	佐野健太郎	東北大学未来科学技術共同研究センター	
広報幹事		庄司 貞雄	再任	(株)日立ソリューションズ東日本	
	新	鈴木 健一	岡崎 直観	東北工業大学工学部情報通信工学科	
評議員 (委員)	新	小林 広明	木下 哲男	東北大学サイバーサイエンスセンター	前支部長枠
	新	滝沢 寛之	菅沼 拓夫	東北大学大学院情報科学研究科	前庶務幹事枠
		佐野健太郎	住井 英二郎	東北大学大学院情報科学研究科	前会計幹事枠
		関口 理恵		NECソリューションイノベータ株式会社	前庶務幹事枠
	新	伊藤 政彦	菊地 正衡	(株)NTTデータ東北	
	新	長瀬 智行	斎藤 稔	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
		山口 広行	再任	八戸工業大学システム情報工学科	
	新	景山 陽一	再任	秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻	
	新	猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
		平山 貴司	再任	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
	新	布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
	新	横山 晶一	再任	山形大学大学院理工学研究科	
		水木 敬明	再任	東北大学サイバーサイエンスセンター	
	新	岩谷 幸雄	岩本 正敏	東北学院大学工学部	
		速水 健一	再任	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
	新	奥山 祐市	成瀬 継太郎	会津大学コンピュータ理工学部	
	新	大山 勝徳	山本 哲男	日本大学工学部情報工学科	
	新	佐藤 恭史	阿部 伸也	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社	
	新	富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科	

## 平成27年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2015.3.27 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長		大堀 淳	小林 広明	東北大学電気通信研究所	
庶務幹事	新	伊藤 輝樹	再任	富士通(株)東北支社	
		北形 元	滝沢 寛之	東北大学電気通信研究所	
会計幹事		瀬沼 宏之	再任	日本電気(株)東北支社	
	新	江川 隆輔	青木 輝勝	東北大学サイバーサイエンスセンター	
広報幹事	新	手塚 大	庄司 貞雄	(株)日立ソリューションズ東日本	
		鈴木 健一	岡崎 直観	東北工業大学工学部情報通信工学科	
支部委員		小林 広明	木下 哲男	東北大学サイバーサイエンスセンター	前支部長枠
		滝沢 寛之	菅沼 拓夫	東北大学大学院情報科学研究科	前庶務幹事枠
	新	青木 輝勝	佐野健太郎	東北大学未来科学技術共同研究センター	前会計幹事枠
		関口 理恵	再任	NECソリューションイノベータ株式会社	
		伊藤 政彦	菊地 正衡	(株)NTTデータ東北	
		長瀬 智行	斎藤 稔	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
	新	清水 能理	山口 広行	八戸工業大学 工学部 システム情報工学科	
		景山 陽一	再任	秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻	
		猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
		平山 貴司	再任	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
		布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
	新	小坂 哲夫	横山 晶一	山形大学大学院理工学研究科	
		水木 敬明	再任	東北大学サイバーサイエンスセンター	
		岩谷 幸雄	岩本 正敏	東北学院大学工学部	
		速水 健一	再任	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
		奥山 祐市	成瀬 継太郎	会津大学コンピュータ理工学部	
		大山 勝徳	山本 哲男	日本大学工学部情報工学科	
		佐藤 恭史	阿部 伸也	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社	
	富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科		

## 平成 27 年度活動計画

## 1 支部報告会

日程 : 平成 27 年 6 月 17 日 (水) 12:30 ~ 14:00

会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 1 号館別館 4 階 451・453 大会議室

## 2 委員会等

運営委員会 : 1~2 回程度開催予定

幹事会 : 1~2 回程度開催予定

## 3 各種事業 (行事、表彰等)

電気関係学会東北支部連合大会 : 8 月 27 日, 28 日開催予定

研究講演会 : 6 回程度開催予定

研究会 : 8 回程度開催予定

支部奨励賞 : 5 名程度表彰予定

支部学生奨励賞 : 15 名程度表彰予定

支部野口研究奨励賞 : 1 名程度表彰予定

後援 : 子ども科学キャンパス

たのしいサイエンスサマースクール

東北地区若手研究者研究発表会

協賛 : 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座

東北大学電気通信研究所一般公開

## 情報処理学会東北支部 平成27年度予算

## ■収入

収入	平成26年度		平成27年度
	予算	決算	予算
本部からの繰入相当額	1,780,000	1,780,000	1,775,000
支部交付金相当額	1,780,000	1,780,000	1,775,000
補助金収入	50,000	50,000	50,000
野口正一氏からの助成	50,000	50,000	50,000
雑収入(利息等)	1,000	24	30
利息など	1,000	24	30
当期収入合計(A)	1,831,000	1,830,024	1,825,030

## ■支出

支出	平成26年度		平成27年度
	予算	決算	予算
事業費	1,430,000	1,063,319	1,370,000
講演会	300,000	104,854	300,000
研究会	320,000	214,901	300,000
支部表彰	350,000	303,564	310,000
連合大会(分担金)	310,000	310,000	310,000
連合大会(運営費)	0	0	0
セミナー支援	150,000	130,000	150,000
管理費	500,000	353,355	480,000
役員会・幹事会	120,000	225,031	100,000
支部報告会	40,000	0	130,000
広報・アルバイト	330,000	128,324	240,000
雑費	10,000	0	10,000
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	1,930,000	1,416,674	1,850,000

## ■収支

支出	平成26年度		平成27年度
	予算	決算	予算
当期収支差額(A-C)	-99,000	413,350	-24,970

# 平成27年度 電気関係学会東北支部連合大会 実施計画

## 1 実施計画の概要

- 主催学会 : 電気学会, 電子情報通信学会, 照明学会, 日本音響学会  
映像情報メディア学会, 情報処理学会, 電気設備学会 (各東北支部)  
IEEE Sendai Section
- 幹事学会 : 電子情報通信学会東北支部
- 共催団体 : 岩手県立大学 (調整中)
- 大会期日 : 平成27年8月27日(木) ~ 28日(金)
- 大会会場 : 岩手県立大学 滝沢キャンパス  
(〒020-0693 岩手県滝沢市巢子 152-52)

## 2 大会日程

日程	月日	内容		
第1日目	8月27日(木)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演 特別講演 (夜:懇親会)	
第2日目	8月28日(金)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演	

## 3 一般講演

- 日時 : 8月27日(木) 9:00 ~ 15:00  
8月28日(金) 9:00 ~ 17:00
- 会場 : 岩手県立大学 共通講義棟
- 講演内容 : 各専門分野で最近行った研究の発表, 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等

## 4 特別講演

- 日時 : 8月27日(木) 15:30 ~ 17:00
- 会場 : 岩手県立大学 共通講義棟 講堂
- 講師 : 鈴木 厚人 氏 (岩手県立大学学長)
- 演題 : 「ILC について」(仮)

## 5 展示会（製品カタログ展示）

日時：8月27日（木）9:00～15:00

8月28日（金）9:00～15:00

会場：岩手県立大学 共通講義棟内

## 6 講習会

日時：8月27日（木）または28日（金）

会場：岩手県立大学 共通講義棟内

内容：英語プレゼンテーションに関する講習会

## 7 学生交流会（仮称）

日時：8月27日（木）または28日（金）

会場：岩手県立大学 共通講義棟内

## 8 懇親会

日時：8月27日（木）17:30～19:30

場所：岩手県立大学 メディアセンター（学生食堂）

会費：一般:5000円，学生:3000円，実行委員：3000円（予定）（事前申込割引あり）

## 9 来年度（平成28年度）の幹事学会と開催校について

平成28年度幹事学会：情報処理学会東北支部

平成28年度開催校：東北工業大学

## 平成27年度 電気関係学会東北支部連合大会

2015 Tohoku-Section Joint Convention of Institutes  
of Electrical and Information Engineers, Japan平成27年度  
電気関係学会  
東北支部連合大会2015 Tohoku-Section Joint Convention of Institutes  
of Electrical and Information Engineers, Japan

トップページ

電気関係学会東北支部連合事務局

開催案内/講演募集

講演申込/投稿

大会プログラム(7月中旬公開)

予稿の書き方

表彰について  
(若手発表者の方へ)

一般参加申込/懇親会参加申込

特別講演会・懇親会

会場・交通アクセスについて

観光情報・宿泊案内

広告掲載・展示会出展のご案内

協力企業一覧

規約

準備経過と予定

3月16日

役員会で期日・場所等を確定

5月13日

講演申込受付開始

6月15日

講演申込締切

7月中旬

プログラム公開

8月27・28日

大会開催

期 日：平成27年8月27日(木)・28日(金)

会 場：[岩手県立大学](#) (岩手県滝沢市巢子152-52)

主催：

[電気学会](#)、[電子情報通信学会](#)、[照明学会](#)、  
[日本音響学会](#)、[映像情報メディア学会](#)、  
[情報処理学会](#)、[電気設備学会](#)(各東北支部)、  
[IEEE](#) (Sendai Section)

## Information

15/06/16

講演申込/投稿受付の締め切りを22日(月)17:00まで  
延長いたしました

15/05/26

広告掲載・展示会出展のご案内を掲載いたしました。

15/05/21

企業企画セッションを企画いたしました。  
詳細は、開催案内/講演募集のページをご覧ください。

15/05/13

講演申込/投稿を本日より受付開始いたしました。

※講演(発表)申込および取り消しについて

講演申込締切日は6月15日(月)17:00となっておりますので、  
それまでにお申し込み下さい。(原稿提出も含む。)また、講演(発表)申込の取り消しについては、7月17日(金)まで  
受け付けますが、それ以降に取り消す場合は、講演申込金の  
返金はできませんのでご注意ください。

問合せ先：電気関係学会東北支部連合事務局

E-mail: [rengojimu@ecei.tohoku.ac.jp](mailto:rengojimu@ecei.tohoku.ac.jp)

# 2014 年度 事業報告

## 1. 概況および重点活動

少子高齢化や企業研究開発活動の縮退などにより、従来型の学会運営が厳しさを増している中、本学会も、経営マインドに基づく抜本的な改革が求められている。2013年度より、喜連川会長の強力なリーダーシップの元で、安定した学会運営、会員増、新たな会員価値の創造、社会への貢献を目指して、種々の改革や新たな取り組みを行った。今年度は、この取り組みの2年目にあたり、体制面の改革は軌道に乗り、その効果として、会員増や新たなサービスなど具体的な成果も出始めている。

特筆すべき改革や成果としては、下記のものあげられる。

- 学生無料トライアル制度その他の施策により、長年減少を続けてきた会員数を2年連続で増加させることができた。特に今年度は、有料の会員数を増加に転じさせることに初めて成功した。
- 新世代担当枠の理事が着任し、新世代企画委員会などでの活発な若手の議論を主導した。ドワンゴ社、ニコニコ動画との提携および学会イベント中継とアーカイブ、全国大会での「IPJSJ-ONE」講演会の成功、ジュニア会員制度の企画に貢献した。
- 女性理事、会員の活動活性化を目指して理事選挙制度改革や女性会員増を目指した取り組みを行った。会誌編集委員会女子部の連載などの具体的な成果が出始めている。
- 高校の教員免許更新講習会を開催した。
- 実務家、ITプロフェッショナル向け新サービスとして、認定情報技術者制度（CITP）による個人認証の本格運用開始。これは日経 IT Pro の記事でも好意的に取り上げられた。
- 理事会で活発な議論および意思決定が行われ、タイムリーな各種施策実行に直結するようになった。
- 長期戦略担当枠の理事が着任し、2年の理事任期を超えた中長期戦略が議論されるようになった。成果は中長期を見据えて表れると期待している。
- 会員サービスの向上および柔軟な学会運営のための情報基盤整備の一環として、学会情報システムのリニューアルおよび会員活動のためのプラットフォーム化を推進した。

この他にも、グローバル化を目指した取り組み、学会コンテンツアクセスのサイトライセンス、国の政策や方針に対する活発なパブリックコメントの発信、国内外学会との連携などで多くの成果が出始めている。

また、調査研究活動、論文誌編集活動、学術講習会の開催、標準化活動においても、新たな取り組みに挑戦しつつ、例年通りの成果を上げている。財務的には、種々の新たな取り組みを行ったが、種々のコスト削減の施策を行い、当年度黒字を達成した。

### 1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① 若い世代の柔軟な発想を運営に反映させるために「新世代理事」を設けた。
- ② 長期的学会運営戦略を検討し、これを実現させるために「長期戦略理事」を設けた。
- ③ 会員の真のニーズをタイムリーに把握できる CRM 基盤「INPACT (Investigate Personal Activity) システム」の整備を推進した。
- ④ 第三者機関であるアドバイザーボードからの提言を適宜諸事業へ反映した。

- ⑤ 女性が活躍できる学会を目指し、女性理事の倍増、研究会や編集委員会の女性委員増、女子学生会員の積極勧誘等を推進した。
- ⑥ 学会の魅力向上・価値の向上を目指して策定した中長期計画の定期的な見直しを継続し、計画に基づいた諸施策を推進した。
- ⑦ 学会活動の趣旨に賛同頂ける企業との連携強化を推進した。

## 1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代担当理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」を設け、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込んだ。ドワンゴ社、ニワンゴ社（ニコニコ動画）と公式提携し本会の公式ニコニコチャンネルを2015年3月よりスタートさせた。また、第77回全国大会より研究会から推薦の一押し研究者から19名を厳選し、プレミアム感のあるステージとして「IPSJ-ONE」講演会を行った。
- ② 2012年度に導入した「学生無料トライアル会員制度（試行）」について拠点校の拡充、支部への協力依頼等、より強力に推進し当初目標としていた制度適用者1,000名に対して、717名の方に本制度を活用頂いた。更に、次年度からは現在の制度を発展させ名称を「ジュニア会員制度（試行）」として、申込をオープン化すると共に、制度の利用対象も下は小学生から上は大学学部3年生迄に拡大し推進する。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催した。学生や若手を対象とした賞を授与した。iDB Workshop 2014では、若手研究者の研究テーマに関してメンターを招いて討論を行った。

## 1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の3領域に分けて、領域委員会を3回ずつ開催し、研究会間での情報交換を促した。
- ② 調査研究運営委員会、政策提言委員会、若手研究者の会が連携し、国の政策および方針に関する「サイバーセキュリティ」、「ビッグデータの活用」、「ポスト「京」」「情報通信政策の在り方」などに関するパブリックコメント募集に対して、各専門の研究分野と連携して積極的な提言活動を行った。
- ③ 個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクト（期間2014年11月1日～2015年10月31日）を募集し、国際会議支援、女性研究者支援などの7件（総額151万円）を採択し支援することとした。また、複数の研究会の共催による「DICOMOシンポジウム」、「Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI)」、「インタラクション」などを開催した。

## 1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）のインパクトファクタ取得について、再申請に向けて諸対応を検討、促進した。トランザクション CVA についてはインパクトファクタの取得の申請手続きを行った。
- ② 査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにする必要性と、それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ、国際的に広く使われている商用査読管理システムの精査と試行、PRMS に替わるオープンソースの査読管理システム設計・開発の検討を行った。
- ③ 研究会活動を中心に、国際会議の主催や共催を推進した。情報環境領域プロジェクトとして、ACM CHI や International Workshop on Security への参加費・旅費の援助を行った。

- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ、これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討した。IEEE Computer Society との間で相互協力・友好関係を築くために、2015 年から 2016 年 12 月 31 日までの期間で会費の相互割引や新サービス提供などを定めた協力協定 (MOU) を結んだ。
- ⑤ アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (The Korean Institute of Information Scientists and Engineers), インド CSI (Computer Society of India) との中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

### 1.5 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化

- ① 高度 IT 人材の資格制度である「認定情報技術者制度」について、個人を対象とする認証審査の本格運用を実施し、28 名の認定情報技術者が誕生した。また、企業の社内資格制度を対象とする認定審査の制度試案を公表するとともに、5 社の協力を得て試行を実施した。
- ② 2 つの新設 IT フォーラムを立ち上げるなど、ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなど、各種の実務家・IT プロフェッショナル向け活動を推進した。
- ③ 情報処理推進機構 (IPA), 情報サービス産業協会 (JISA), 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS), 電子情報技術産業協会 (JEITA), 科学技術振興機構 (JST) などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献した。

### 1.6 教育活動の充実

初等中等教育、専門学校そして大学などにおける情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

- ① 情報教育カリキュラムの策定
- ② アクレディテーション (教育期間における技術者教育プログラムの認定。JABEE からの委託)
- ③ 高校の教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における情報科目提言、大学情報入試全国模擬試験実施、教育シンポジウム・コンテストの運営と後援。

### 1.7 会員サービスおよび広報の充実

- ① 会員サービスの向上と柔軟なサービス運営を提供するために会員の真のニーズをタイムリーに把握できる CRM 基盤「INPACT (Investigate Personal Activity) システム」の整備を推進した。
- ② オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、サイトライセンス、会誌並びにデジタルプラクティスの Apple Newsstand 掲載など、新しいサービス提供形態を推進した。
- ③ 今年度 4 月より開始した大学向けサイトライセンスサービスに引き続き、2015 年 4 月から企業向けサイトライセンスサービスを開始することを決定した。
- ④ 昨年度から策定していたシニア会員制度の運用を開始した。今年度は 261 名のシニア会員を登録した。

# 2015 年度 事業計画書

## 1. 概況および重点活動

少子高齢化，IT 技術のコモディティ化，グローバル競争の激化などの流れは続いており，多くの学協会では会員数や収入の継続的減少に悩んでいる。一方で，ICT の急速な進化が社会に対して大きなインパクトを与えるようになっており，情報処理分野における技術イノベーションをリードする立場として，本学会の果たすべき役割はますます広がっている。

このような環境の中で，学会価値の向上と会員向けサービスの向上を図り，会員数を増加させて安定した運営を行うためには，若い世代の会員を増やしてその活動を活性化させていくことが重要となる。これまでに学生向けの無料トライアル会員制度を試行し会員数の減少を食い止めることができたものの，会員増を確実なものにしていくためには，会員制度の拡充や若い世代が関心を持つサービスの提供など，さらなる努力が必要となる。また，学会から疎遠になった実務家や IT プロフェッショナルに対するアプローチも重要となる。

会長交代の年度となる本年度はこれまで推進してきた学会の抜本的改革を継続し，中長期戦略の策定，若手アイデアの実現と小中高生にまで範囲を広げた会員制度の拡充，研究会による諸活動の推進と社会への提言・情報発信，グローバル化，高度 IT 人材の資格制度の強化，学会情報システムのリニューアル及び会員活動のためのプラットフォーム化，会員サービスの拡充において，下記を中心とする施策を実施する。また，企業や業界団体のイベントへの共催・後援や企画協力などを今まで以上に積極的に行い，学術と産業の接点として情報処理技術を通して社会の発展を目指す。

### 1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で，学会を安定的に運営しつつ，これを発展させるためには，学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ，新しいアイデアを積極的に取り入れて，学会を柔軟に改革できる運営体制が必要である。このため，下記の施策を実施する。

- ① 若い世代の柔軟な発想を学会運営に取り込むべく，「新世代理事」を中心とした新世代企画委員会活動を引き続き推進する。
- ② 「長期戦略理事」を中心に，新しい会員サービス，学会のビジネスモデルや会誌の出版形態についての中長期戦略を策定し，これを適宜見直しながら着実に実施する。
- ③ 会員の真のニーズをタイムリーに把握できる情報基盤の整備を推進する。
- ④ 第三者機関であるアドバイザーボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。
- ⑤ 財務状況の見える化を図り，各事業や情報基盤整備の投資効率を意識して運営する。

### 1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し，新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。
- ② 2012 年度に導入した「学生無料トライアル会員制度（試行）」を拡充し，拠点校に限定せずに小学生までがオープンに入会申込ができるかたちで「ジュニア会員制度（試行）」として実施する。また，2016 年度から「ジュニア会員制度」の本格運用を目指す。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て，学生や若手研究者のためのイベントを企画開催する。

### 1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進する。
  - (a) 研究会活動を通じた学生会員獲得
  - (b) 論文・研究会資料におけるマルチメディアコンテンツ(ビデオ動画や音素材等)収録に向けた検討
  - (c) 研究会の活動の中心となる委員に女性の積極的な登用を推進する。
- ② 調査研究運営委員会、政策提言委員会、若手研究者の会が連携し、
  - (a) 長期的な研究のグランドデザインやロードマップに関する議論の継続
  - (b) 国の政策および方針に関する各研究分野の積極的な提言活動の推進などを通じて、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指す。
- ③ 積立資金によるプロジェクトを募集し、個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による国際会議支援、女性研究者支援の活動を活性化する。
- ④ 現在の調査研究活動における研究会やシンポジウムの機会を活用し、異なる領域を統合する新たな研究領域開拓のための取り組み、および、それらを社会へ発信する活動を推進する。

### 1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing (以下, JIP) のインパクトファクタ取得について、再申請に向けて諸対応を促進し citation の増を図る。CVA 等のトランザクションについてもインパクトファクタの取得を目指す。
- ② 査読プロセスならびに査読管理システムの国際化についても検討する。査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにするものの必要性和、それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ、PRMS から国際的に広く使われている商用査読管理システムへの移行を進める。
- ③ 研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催するとともに、海外学協会との連携を推進する。
- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ、これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討し、これを実施する。
- ⑤ 日本に留学生を多く輩出している中国や他のアジア地域などの国々との連携の機会を検討し、これを実施する。

### 1.5 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化

- ① 高度 IT 人材資格制度について、個人認証制度の本格運用を進めると共に、企業認定の制度についても本格運用を開始する。
- ② ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなどにより、実務家・IT プロフェッショナルの育成に貢献するとともに、会員増、収入増を図る。
- ③ 情報処理推進機構(IPA)、情報サービス産業協会(JISA)、日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)、電子情報技術産業協会(JEITA)などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体や企業との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献する。

### 1.6 教育活動の充実

初等中等教育、専門学校そして大学などにおける情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施する。

- ① 情報教育カリキュラムの策定
- ② アクレディテーション(教育機関における技術者教育プログラムの認定。JABEE からの委託)
- ③ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における「情報」科目提言、大学情報入試全国模擬試験実施

## ⑤ 教育シンポジウム・コンテストの運営と後援

### 1.7 会員サービスおよび広報の充実

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための諸施策を企画し、会員の目線で、魅力ある学会作りを目指し、必要に応じて会員制度の見直しも検討する。具体的には下記の項目を実施する。

- ① 会員の真のニーズをタイムリーに把握するために構築した CRM 基盤「INPACT(Investigate Personal Activity) システム」を活用し、会員サービスの向上を図り、柔軟なサービス運営を提供する。
- ② オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進, マルチメディアコンテンツ配信などの新しいサービス提供形態を推進する。
- ③ 昨年度, 提携したドワンゴ社/ニワンゴ社のニコニコ動画等を活用し, 学術コンテンツ(動画や論文など)の新たな流通プラットフォーム構築を推進する。

### 1.8 学会システムの拡充

現マネジメントシステムが構築されてから、既に 8 年間がたち、老朽化した HW/SW への対応が急務となっている。更に今回 1.2 の②で述べた 2016 年度から本格運用を目指す「ジュニア会員制度」に対応したマネジメントシステムの拡充を行う必要がある。具体的には以下の施策を行うとともに、さらなる ROI を意識した周辺システムまでを含めたマネジメントシステムの刷新を検討・実施する。

- ① マネジメントシステムのデータセンタの VM への移行による、HW 障害のリスクに関する対応
- ② マネジメントシステムの最新の OS/MW への移行による、種々の SW の問題点への対応
- ③ ジュニア会員制度に対応する会員制度の拡充への対応